

粗利益の管理だけでは不十分 常に“顧客視点”に立ち返る「ウェブ・クロノス」 勘定系データ抽出機能も好評

シーシーエス

シーシーエス(長井好昭社長)は、スプレッドバンキング収益管理パッケージソフトとして「ウェブ・クロノス」シリーズを提供している。ウェブ・クロノスはこれまで「CRANOS-A」(A)、「CRANOS-Ask」(Ask)、「CRANOS-B」(B)、「CRANOS-C」(C)、「LACSYS」から構成される製品体系(図1)を発売、既に多数の地域金融機関に導入されている。同社は、6月1日付けで、ウェブ・クロノスの新製品として「CRANOS-Ad」(Ad)、「CRANOS-Cd」(Cd)を発表した。AdはAskで実現した信金共同センター加盟金庫向けの勘定系データ抽出機能を、自営システムの銀行、信金にまで拡大。CdはCで実現した月次ベースの顧客別収益管理システムを日次対応に進化させた。常に顧客視点に立ち返り、“かゆい所に手が届く”機能の実現をめざすウェブ・クロノスの全体像を追ってみた。

粗利益の管理だけでは不十分— ウェブ・クロノスのコンセプト

ウェブ・クロノスの基本コンセプトを貫くのは、“粗利益の管理だけでは不十分”——だ。信用コストを勘案して初めて質の伴う収益が確保され、更に原価を控除することで採算が把握できるというのがウェブ・クロノスの収益管理のコンセプトである。従って、ウェブ・クロノスにおける収益は次の公式によって導き出される。

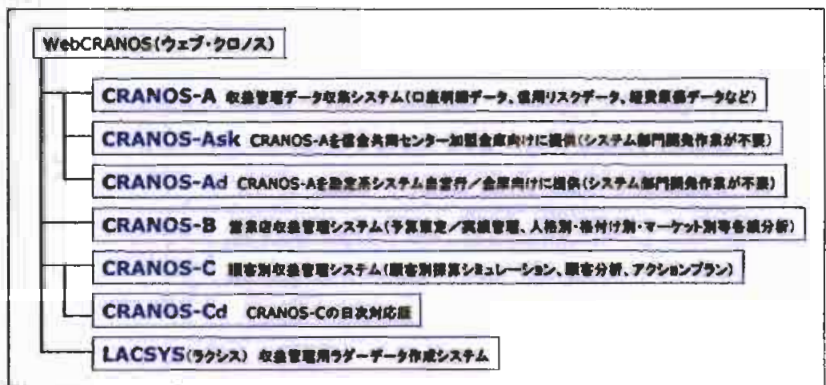
収益

||

粗利益—信用コスト(予測損失)—経費又は原価(ABC原価)

これに基づきウェブ・クロノスは、収益管理(営業店収益管理、顧客別収益管理)機能にリレーションシップバンキングの一環として整備されている信用リスク管理系システム

図1



から取得可能な信用コスト、取得可能な役務収益と経費・原価を付加した管理機能を提供する。

口座データ収集システムの CRANOS-A

Aは口座データ収集システムである。口座明細データにスプレッドバンキングに必要な各種情報を付加し、収益管理に必要な明細データを作成する。収集データは、①シナリオ ②営業店情報 ③各種レート、ガイド金利情報 ④主要顧客ベース顧客情報(預金、貸金口座明細他) ⑤役務明細 ⑥名寄せ情報 ⑦原価情報である。

勘定系システムデータ抽出負担を 解消したCRANOS-Ask、CRANOS-Ad

シーシーエスがAをさらに進化させたのがAskとAdだ。Askは信金共同センター加盟信金向け、Adは勘定系システムの自営行及び自営信金向けだ。Aの機能をそっくりそのまま維持し、さらに新たな画期的機能が付加された。それが勘定系データ抽出機能だ。従来のやり方では、経営管理系システムを導入する際、システム部門の勘定系データ抽出作業を多くの人月をかけてカバーしなければならなかった。ここでのネックは、必要とされる作業が単なるデー

